

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201496		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	サポートピア花水木		
所在地	長崎県佐世保市藤原町5-1		
自己評価作成日	令和2年6月5日	評価結果市町村受理日	令和2年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居される方のレベルや、周辺状況も大きく変わってきている。なかでも、遠方におられる家族との連携が難しい。他にも医療の提供や看取りのことも、以前に比べると簡単ではない。ただ現場では、そのような問題もものともせず、入居者への支援を行っている。世の中がどんなに変わっても、人と人を結ぶのは思いやる心、奇麗ごとでなく笑いの絶えない事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に立地する当ホームは、佐世保駅前の幹線道路に程近いことから交通アクセスも良く家族や友人知人も訪問しやすい環境であり、地域との繋がりを大切に日々の入居者支援に取り組んでいる。ホームには介護経験豊富な職員が多く在籍しており、熟練した介護技術の提供による入居者支援が運営上の強みとなっている。終末期の支援についても同様で、経験豊かな施設長や管理者の声掛け・指導によって職員の精神的負担を軽減するとともに、入居者本人及び家族の希望に応じた最期を迎えられるよう努めている。ホームでは母体会社の方針による手厚い福利厚生によって職員は日頃から安心して職務に就くことができ、そのことが入居者への良質なサービスへと繋がっている。今後も地域に根付いた運営と良質なサービスの提供により、地域密着型事業所としての更なる発展が期待できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立より、ゆったりと楽しく、自由にありのままに、馴染みの環境で、地域と共にの理念のもと、日々のケアを心掛けている。	ホームでは平成18年にグループホームが地域密着型サービスに位置付けられたことを機に、福祉先進国であるスウェーデンの著書から抜粋したものを理念として掲げている。職員は理念をもとにしたキャリアアップ制度に沿って年間目標を設定し、年1回施設長との面談の際に目標達成度や支援の振り返りを行うことで、理念の共有や支援の実践へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や清掃など、参加できることは進んで行っている。	ホームは町内会に加入し、地域との繋がりを大切に支援に取り組んでいる。毎年11月にはホーム敷地内にてバザー大会を実施しており、焼きそば・ぜんざい等の出店コーナーや、地域住民・ホーム・母体会社によるバザーへの出品など、地域住民と入居者・ホームが一体となり楽しいひと時を送れるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表者が参加される運営推進会議などを利用して、関係する資料など説明し配っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況報告は密に行っている。資料の提供と意見交換は行えた。	運営推進会議は地域包括支援センター職員・地域老人会会長・家族会会長・地域代表(元入居者家族)による構成で開催している。会議ではホーム内の現況報告や地域からの情報提供をもとに意見交換を行っており、会議でのやり取りによって地域との密な関係性を築くことができている。現在、コロナ禍の状況にあるため、4月・6月の会議については書面決議にて行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、問題が発生した時は相談を行っている。担当課からのお知らせ等はメールで確認を行っている。	法制度の改正や不明点、ホームにて困難事例が発生した場合等、施設長が直接市担当課窓口へ赴き、解決のための手段や方法を相談し、迅速に対応するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会において、年4回話し合いの場を持ち、その後のホーム会議で周知出来るようにしている。	ホームでは身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、職員の身体拘束に関する見識を深めている。今年2月にはグループホーム連絡協議会主催の虐待防止に関する研修会に職員2名が参加し、その後の勉強会にて資料配布や研修内容の伝達を行い、他職員にも周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、事業所内研修を繰り返し行い、身体拘束防止と合わせて、周知徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度的なことは、しっかりとした情報が必要なため、その道の専門家に学んだり、その後の勉強会で知識の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際に、重要な要綱として説明を行い納得していただくよう努力している。また、説明には二人の立ち合いをお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、小さなことでも申し出ていただけるようお願いしている。窓口は、出来るだけ混乱を避けるために絞っている(管理者・計画作成担当者・ホーム長)。	職員は入居者との日頃の会話内容や、家族面会の際に聞き取った内容を申し送りノートやケース記録に記載し、必要であればケアプランに反映している。入居者や家族から聞き取った内容によっては迅速な対応を求められるものもあるため、その場合は施設長や管理者に直接報告し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や困りごとやなど、事業所で解決できない場合は、本部を通じて提案している。今年度は、マスクの手配や衛生品の手配などを行ってもらった。	母体会社の方針で、『残業しない、有給休暇消化、傷病手当、育児・介護休暇・産前産後休業』などの福利厚生が充実しているため、職員は日頃から安心して職務に就くことができている。また、1年毎に全職員を対象に個人面談を実施し、職員の意見や意向の把握に努めている。職員意見を反映し、ホーム設備等の充足に高額な費用が掛かる場合には施設長から本社に申し出て実現できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員のレベル向上のため、勤務体制や昇進や昇給などの改革を行い、働きやすい職場であると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人で不足が顕著な中、マンパワーを最大限に引き上げ、雇用年齢にもこだわらず、意欲のある人材を確保できる環境だと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のメンバーであり、各ユニットのホーム長が、勉強会の役員もを行っている。現在は、自粛中で会合は持てないが連携は取れている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や、家族との面談などで大筋の情報は確保し、入居後に本人との会話なども重視している、安心できる環境作りにつながるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでの多くの問題は、入居することで一段落するが、落ち着いて集団生活が続いていけるかなど、しばらくは心配があると思う。気になることや、逆に安心で来ることなど情報を提供して、連携を取るようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番心配なのは、環境の変化に伴う事故なので、事前調査においても、リスクにつながる見極めは、重要視している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみや居室掃除など、小さな作業も職員の見守りや一緒に行うことで、出来る範囲が増えている。職員も明るいので笑いもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な範囲で外食や受診や買い物など、関わりを持たれる家族もあるが、全部ホームに任せきりになっている例もある。しかし、誕生日や母の日・父の日などのプレゼントやお手紙など、家族の絆をもっといただけるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係は、周りが高齢すぎて足は遠のき、特に県外の家族の面会も数が減りつつある。それに、コロナウイルスによる面会制限もあり今後も不安である。	入居者の高齢化や重度化が進む中、職員は電話の仲介や手紙の代筆を行うなど馴染みの関係が途切れないよう取り組んでいる。現在、コロナ禍の影響もあるが、受診後に入居者馴染みの場所へ買い物に出掛けたり、可能な方はホームの買い出しと一緒にいたりするなど、できることの支援に努めている。施設長は日常に戻った折にはこれまで以上に手厚い支援を行いたい意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人も、そうでない人も、レクやゲームには参加され楽しめる。ひとりで楽しむぬりえやパズルなども、個別に提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで退去された方の家族の、運営推進会議メンバー入りや、いまだに年賀状やお手紙などいただく事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いとしては、一番多いのが自宅に帰り、家族と一緒に過ごすことだが、それにつながる小さな希望として、ケアプランなどに家族の面会や、外出の機会を設けている。	ホームでは入居者との日頃の会話の中から思いや意向を把握し、解決すべき課題の抽出やそれに沿った目標設定を行っている。また、支援内容が確実に遂行できるようケアプランの支援内容に番号を振り、ケース記録に箇条書きして実施できた場合は○、できなかった場合は×で記録に残し、目標達成に努めている。更に、ケアプラン見直しの際の内容検討や毎月のケアカンファレンスにて評価し、次回ケアプラン作成へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、入居時のサービス担当者からの聞き取りなど大変ためになる。実際、本人からの聞き取りも大事。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	季節の変わり目や、体調の不具合で起こる変化は、見逃さないように管理している。重大な事故にならないよう申し送り等を、徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で発生する課題は、その場の職員と意見を交わし、そのアイデアを介護計画に活かすようにしている。	ケアプランの見直しについて、ホームでは1か月・3か月・6か月と入居者の状況に応じて様々に対応しており、その方に適したプランとなるよう取り組んでいる。ケアプランはサービス担当者会議・モニタリング・ケアカンファレンス・アセスメントを経て、ケアマネジャーや計画作成担当者による次回ケアプラン作成時に支援内容の継続や新たな目標を立て、日々の支援実施に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施記録は毎日残している。出来ていること、そうでないことを明らかにして見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族や、家族自身が高齢化であるなど動けない要因で様々な依頼があるが、出来る限り応えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源では、訪問理美容、訪問歯科、移動販売など活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの嘱託医に、入居前に主治医の意向を確認し、嘱託医への紹介状をもらっている。一般受診以外の定期的な受診などで、家族と相談して協力をお願いしているケースもある。	ホーム入居時、入居者本人及び家族に対し、ホーム嘱託医への主治医変更を依頼している。受診の際には職員による同行支援を行い、他科受診についても同様に支援している。尚、精密検査を必要とする場合には嘱託医へ紹介状を依頼し、家族にも受診同行への協力を得ている。また、義歯調整や歯周病予防などについて歯科医師による往診も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師は勤務しているが、大変頼りにしている。日々の変化や気づきは、嘱託医へ毎日上申している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、早期の治療と退院を希望し、家族と連携を取りながら、医療機関と関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時点で、嘱託医と家族とホーム職員とで話し合いを必ず持つようにしている。状況次第では、転院を進められる場合もあるが、家族の希望で看取りをお願いされれば、医療と介護の範囲内で受け入れをしている。	ホームでは経口摂取ができなくなるなど入居者が重度化した場合、ホーム嘱託医による看取り時期の判断と併せて看取り支援を開始しており、家族の意向について入居時とは別に再度聞き取っている。また、看取りに関する手順書を作成し、施設長や管理者による声掛け・指導によって職員の不安を軽減することができている。最近では3か月に及び看取り支援を行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、慌てることが多いため、事前に入居者の情報書や嘱託医からの依頼書など準備している。混乱を避けるため、早期の手当てなど勉強会で周知をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練は、年に3回は実施している。地震水害は、なかなか想定が難しいが、消防署の指示やアドバイスを受けながら、実施している。	ホームでは建物の2階と3階を出火元と想定した避難訓練を行っており、“初期消火が失敗した場合にはいち早く入居者を避難させることが最優先”であることなど、消防署からの指導に沿って実施している。歩行が困難な方等の避難方法については車椅子へ移乗し対応している。現在、有事の際の避難受け入れ先の確保については近隣施設へ依頼することを検討している。	ホームでは現在、有事の場合に備えて初期消火・通報・避難誘導時の職員の役割分担を職種別に割り振っている。有事の際に職員一人ひとりが確実に役割を遂行できるよう、勤務シフト等により役割を分担するなど入居者の安全確保に繋がる今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常々、言葉使いには十分な配慮を心掛けるようにしている。重度者や認知症の進み具合では、敬語より親しい声かけや態度が必要な時もあるので、工夫している。	職員の入居者への言葉遣いについて不適切な言葉掛けがあった場合、施設長から個々に指導するなど他の職員に悪影響とならないよう留意している。施設長は不適切な言葉掛けを課題として捉えており、入居者の人格を尊重した言葉遣いができるよう、こうした職員への個別指導を継続していく意向にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実行可能な支援については、出来るだけ実施しているが、過剰な訴えや実行不可能な場合は、否定するにしても声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れに沿ってはいるが、個人差がある場合は、例えば食事などでも少し時間をずらしたり、起床や就寝の時間など自由な時間を持たれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は、毎月の床屋や毎日の髭剃りなど身だしなみを楽しまれている。女性の方も、パーマやカットやお化粧など興味があるので、家族と相談しながらおしゃれのお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さん食べることは大好きで、何でもおいしいと食べられるが、中々積極的なお手伝いは望めない。テーブル拭きや、お膳を下げたりすることは、していただいている。	献立の主菜・副菜について外部業者へ委託しているが、主食及び汁物についてはホームにて調理し提供している。食事は嚥下能力に配慮したソフト食(見た目をできるだけ常食に近付け柔らかくした物)や嗜好を考慮するほか、アレルギーについては代替食を準備し提供している。また、入居者が食べたい物についても、インスタントラーメンやカップ麺の提供など柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切に食事や水分の摂取が出来ているかチェックを行い記録にも残している。食事量の低下時には、その人の好みの物や、食事の形態など工夫して、おいしく食べていただくよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、何より大事という認識を持ち、日々努力している。また、それでは足りない部分があるので、定期的に訪問歯科をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に応じた使用を行い、排泄記録をもとに、トイレ誘導で失禁を減らす努力をしている。	職員は入居者個々の排泄パターンを把握し、排泄の声掛け等の支援を行っている。ホームではトイレでの排泄を基本とし、ポータブルトイレを使用している方はおらず、排泄の自立支援に対して高い意識を持って支援に取り組んでいる。また、リハビリパンツや尿取りパットの使用については入居時に説明を行い、個人に応じたサイズの検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレスも大きな便秘の要因で、今回コロナウイルスで外出の機会が無く、家族との面会も規制され便秘になる方が増えた。食べ物の工夫や、レクリエーション活動などで、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否があったり、汚した場合など入浴日の入れ替えを行っている。入浴は、大事故に繋がる危険性がある為、職員配置の多い時間帯の日中に行っている。	ホームでは入居者全員が週2回は入浴できるよう支援している。入浴拒否や体調不良などによる代替日対応を行うほか、入居者の希望に沿った入浴ができるよう、毎日入浴の準備を行っている。また、入浴拒否があり入浴できなかった方や皮膚疾患のある方については清拭や足浴にて対応し、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来れば夜間に安眠していただきたいので、日中の活動を増やしている。昼寝の時間や、居室で静かに過ごしたいなど個々の要望には応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は、担当者が決まっているが、日々の服薬提供なので、処方箋に従った手順やチェック法で誤薬のないようにしている。また、症状に異常があれば、上申している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションへの参加、皆で行う作業など声をかけている。今年度は、なかなか買い物外出やドライブなど実施できず、不満があるかもしれない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス対策ではあるが、戸外への外出は極力避けている。家族の面会も制限となっているので家族との外出も出来ない。もう少し、落ち着いてきたら、実施可能になるかと考えている。	コロナ禍以前は個別の外出支援やホテルでの会食などのイベントを実施しており、入居者の喜ぶ姿を見ることができていた。ホームでは今後日常に戻った折にはこれらについて定着できるよう再開する予定である。現在はホーム周辺の散歩や受診後の買い物などを行い、入居者の気分転換が図れるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングの機会には、好きなものを購入できるように支援している。週2回、移動販売車が来るので、果物やお菓子を購入されている。高額な買い物は、家族にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からは、誕生日や記念日などに、花やお菓手に手紙など添えられて送られてくる。電話は自らする方もおられるが、家族に拒否される事例もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングの湿温度は、日に2回計測している。窓を開け換気を行い、リビングには季節の花や飾りつけを行っている。	共用スペースであるフロアには入居者が居心地良く過ごせるよう温湿度計を設置し温度や湿度を調整するほか、窓の開閉で適宜換気している。廊下には季節毎の柄が入った手拭いを額に入れ、入居者に季節を認識してもらえるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす方が自然と多いが、居室で一人でテレビを観たり、ぬいぐるみと遊んだりして過ごされる方もいるので、見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物は家族にお願いしている。遠くにいて対応が出来ない場合には、家族と相談しながら対応している。	ホームでは入居時に本人及び家族に対して居室への持ち込み品についての説明を行っており、以前から使い慣れた物を居室に持ち込むことで自宅での生活が継続できる環境づくりに努めている。これにより入居者はホームにて安心した生活を送ることができている。	入居する際の持ち込み品について一覧表があるものの、火気や刃物類の持ち込みの可否について記載がなかった。他入居者や職員の安全確保など、ホームの危機管理の観点からこれらの事項について追記することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	このユニットの入居者の方は、自分の居室は分かる方が多い。しかし、トイレなど分かりやすく表示したりしても、認識出来ない場合があるので、そんな時は安全のため誘導を行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 はるか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりと楽しく、自由にありのままに、馴染みの環境で、地域と共にを、当初から変わらぬ理念で心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や清掃などに参加しており、これまでも続く交流がある。しかし、現在はコロナウイルスのことがあり、交流が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加される老人会の会長さんには、時の話題や介護や病気についての資料など、参考にされて会合で配られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での報告は行うだけでなく、意見をいただいたり一緒に考えたりすることが多い。それぞれの広い視野で大変ためになる事を聞ける。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課とは、メール(通知・調査・アンケート等)にての、やり取りが中心。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会で、年に4回は会議をもち議論している。その後のホーム会議で、全職員には周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修も増やし、虐待へ繋がらない意識を持つようにしている。虐待へ繋がりがちな雰囲気が見られたら、職員同士が声を掛け合い助け合えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい事柄ではあるが、情報を取り入れて、学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明が必要なので、混乱を避けるため、はっきりした理由を伝えるように心がけ、同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を出しやすい雰囲気作りをしている。安易に関係を持つのではなく、真に可能であるかを見極めて、出来るだけ受け入れが出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において確認し、管理者を通じて本部・代表者へと反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く側の待遇は大変良いと思う。経験や、やる気など給料に反映できている。休暇は取れて、残業はほとんどない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格が必要なポジションもあるので、取得したりチャレンジする環境を与えたりしている。会社のバックアップ体制もある。また、介護経験が長い職員が多いので、必然的に資格取得者も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や交流会には参加している。今年度は、コロナウイルスの件で実施されていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の調査で、大筋の状況をつかみ支援に活かしているが、入居されてからの生活の中で浮上する要望が大切であると思う。小さなことにも耳を傾けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一番の困りごとは入居されることで解決するが、入居した後、様々な事情が出る場合があるので、その都度相談にのるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最近では、遠くにいる家族や動きづらい事情の家族が、面会や直接対応出来ない部分が出て相談されることが多い。こちらで出来ることは、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	頼みごとをすると喜ばれる、あまり押し付けにならずストレスを溜めない程度に協力してもらっている。また、お茶の時間など、コミュニケーションを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食や美容室などへ連れ出していただいたり、居室の衣類の入れ替えなど手伝っていただいたりと協力をしてもらえる家族もある反面、家族の絆をほとんど伺えない場合もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関りが一番だが、久しぶりに会う友人や親戚の方との面会は、大変喜ばれる。お互いが高齢の場合が多いので、元気なうちに来ていただけるよう声掛けをしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつでも仲が良い訳ではなく口喧嘩も見られる。しかし、居ないと気になるのが人間で、良い時も悪い時も関わりが必要なので、決して遠避けたりしない。職員との関係も、孤立させないための手段にもなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、狭い町なので家族と会う機会もある。入居時の話などに花が咲き、新規の入居者を紹介してもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望は聞き入れるようにしているが、困難な場合は、家族への聞き取りや普段の様子から検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報に加え、入居生活の中で、本人の話や家族の話の中より新たに情報を得ることが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新たな発見や身体の変化は、常に職員間で情報の共有が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、担当者のみが関わるのではなく、現場での事案に積極的に意見交換出来ている。介護計画にも大きく反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に時間を取られ過ぎず、実施記録や介護記録は確実に残せるように、記録自体を見やすい様式にしている。その方が、職員の共有にも繋がっていると感じる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の高齢化による問題も、最近は多く出ている。ホーム側で代行できることはないか、常に考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容や訪問歯科を利用されている。週に2回移動販売車が来るので、そちらの利用を喜ばれる方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明で納得を得て、ホームの嘱託医への移行をお願いしている。嘱託医の紹介で連携がないと、他の病院への受診が難しい現状がある。個別の受診事案に関しては、家族に協力いただく場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況報告は、嘱託医に行っている。また、看護師との連携が上手くいくように、専用のシートを使用し、細かな気付きも文章にて伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族の理解のもと、早期の治療と退院を目指し、病院側へ働き掛けている。病院へ伝える情報は、緊急時対応として事前に準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは、事前に家族や医師やホーム側を交えて、話し合いを行う。本人の思いや、家族の気持ちを考えて、出来る範囲での看取りのケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒・誤嚥・剥離・意識消失などの高齢者特有の事故等については、勉強会を繰り返し行っている。それでも実践となると、慣れない職員にとっては難しい問題もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	まずは、火災を起こさないのが一番なので、火の元や漏電など、チェック体制にして管理している。避難訓練は、年に3回は行い、2回は、消防署の参加をお願いして、アドバイスをいただいている(直近はコロナウイルスの影響で不参加)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある態度が重要であることは、十分に理解できていると思う。しかし、慣れからか、言葉かけに配慮が欠ける時もある。その時の状況で、判断しないと分からないこともあるので、出来るだけお互い同士で注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的な発言は今のところないので、こちらから声掛けすることが多い。食べたい、寝たい、トイレへ行きたいなどの欲求が中心となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯や人員配置の問題で、希望に添えないことも多々あるが、事故等のリスクを回避出来れば個々のペースに合わせることが出来るので、無理のない支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭剃りや整髪を毎日行い。女性は、おしゃれに興味がある方は、自分で衣類や整髪をされる。おしゃれに必要な備品は、家族と相談して準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みなさん食事が楽しみで、よく食べられるので元気だと思う。一部の方の手伝いにより、下膳がなされるくらいである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、細かくチェックしており、個々の症状に応じて、ソフト食やキザミ食やトロミをつけるなど工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアには力を入れている。しかし、十分なケアが出来ない方もいるので、訪問歯科による口腔ケアをお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツ対応にならないように、排泄チェック表などをもとに、排泄パターンを考えながら誘導するようにしている。自ら訴える方もいるので、見守りを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ快便へ繋がるよう心掛けてはいる。日常において、運動(廊下の歩行訓練等)・レクリエーションや食物繊維が多い食べ物等で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は、事故のリスクを考えて一番は人員配置の多い時間にしている。入浴拒否が見られた時は、日にちを変えたりしている。また、体拭や足浴などで代替えケアを行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も、それぞれに合った休息時間を設けている。特に、昼寝を希望される方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は担当者が責任を持って管理しているが、日々の服薬には手順をふんで行っている。また、何か変化が起こった場合は、囑託医へ上申を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルをしたり、雑誌や新聞を読んだり、ストレッチ体操をしたりと、個々の興味を生かして楽しんでもらっている。出来ることに差があるため、偏った支援にならないように楽しみを見つけ出せるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら外出を希望する声は聞かれないが、受診や買い物など外へ出る機会があれば、喜ばれる場合もある。ただ、現在はコロナウイルスの影響で、外出は自粛している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って買い物をしたいという気持ちが薄いようで、個人の買い物やトラック便での買い物など、限られた方のみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方だが、家族に電話したり、家族から電話がかかってきたりすることがある。母の日や誕生日などの記念日に、プレゼントや花が送られてくることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清潔で明るい雰囲気を中心掛けている。季節の花やカレンダーや可愛い置物など、ディスプレイなどで、変化をつけている。湿湿度は、1日2回計測している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で居場所を選択できる方には、好きなように移動してもらっている。レベルの低下で、自由な行動が出来ない方は、居室やホールの移動をこまめに行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物を、家族に持ってきてもらったり、居室担当者が中心となり、整理整頓や飾りつけで落ち着ける場所作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレは分かりやすい表示やプレートを用い、持ち物には名前を記入している。事故に繋がらないように、廊下の通り道、居室の移動に差し支えないよう、配慮した環境作りをしている。		